

【香港VIP VOICE Vol.14】

香港で活躍するパワフル・ビジネスVIPにR-Hong Kongが独占インタビュー。VIPのダイナミックな活動と人間味溢れる素顔に迫ります！

第14回目は、HKO ARIGATOO LIMITEDの創設者でありManaging Directorの昆久子（こんひさこ）様。昆様の仕事の流儀、香港とのご縁、素顔に迫ります。サインペンにあるHKO ARIGATOO LIMITEDのオフィスへ伺いました。

R-Hong Kong（以下RHK）：会社とお仕事内容についてお聞かせください。

昆久子様（以下、敬称略）：Foreign Domestic Helpers、いわゆる外国人ヘルパーさんの紹介をしています。フルタイムとパートタイムの双方を合法的に扱っています。並行して10年以上、香港で日本語教師もしています。

ご存じの通り香港にヘルパー紹介エージェントは沢山ありますが、ライセンスを持って、日本人による日本語でのサービスを提供をするエージェントは、うちが香港初じゃないかな。



日本語でのサービスを提供していますが、ローカルに根付いたビジネスをしないと伸びないので、日本人のためのエージェントという文言ではアピールしていません。ご連絡をいただいたお客様は国籍関係なくご対応します。語学堪能なスタッフもいるので、日本語、英語、タガログ語、広東語、北京語でのご案内ができます。またお客様の目線で丁寧に分かりやすく説明することを徹底しています。その甲斐あって、ご夫婦とも日本人という家庭は全体の2割。その他は、主に奥様が日本人と言う家庭や外国人家庭と

なっています。

また、今はフィリピン人のお手伝いさんに特化していますが、最近はインド人家庭からの要望が増え、宗教的・文化的により近い国のお手伝いさんの紹介も広げていく考えです。

社名の ARIGATOO は日本を感じさせるものにしたくて付けました。日本語教師もしているので外国人にどんな日本語が浸透しているかは把握していますが、その中で感謝を伝えるアリガトウにピンと来ました。HKO は、私のイニシャル (H.Kon) と香港 (HK) をもじったものです。ロゴは、幼き頃毎日見慣れた富士山を模したデザイン (RHK 注：昆様は静岡県出身)。日本一の山をかかげていますが、私が目指すのは、日系エージェントの No.1 ではなく、信頼できる香港のエージェント No.1。この目標は達成可能と信じています。

【桜の花をあしらい、ロゴは富士山を模したデザイン。名刺はアルファベット表記のみというのも国籍を意識させないグローバル・カンパニーという印象】



RHK：日本語教師も並行されているとは驚きました。お手伝いさん向けにですか？

昆：いいえ、メインは親日家の香港人や外国人の方です。日本に住んでいたことがある、移住の予定がある、旅行で頻繁に訪れているという方々。お子さんから企業の重役さんまで、こちらも幅広いお客様がいます。重役さんはランチタイムにオフィスに伺ったり、今のご時世、オンラインでレッスンという大人の方も多いです。お子さんは、教材を用意して楽しく遊ぶように学んでもらうので、こちらは出張。エージェント業が忙しくなっていますが、私の香港での原点なので辞めることはありません（笑）。

私が起業したのは3年前。とは言え、1年目はライセンスは取得しているものの、サービスは提供していませんでした。性格的に、分からないものを分かると言う、知ったかぶりをするとということが嫌なんです。自分がしっかりと把握してからでないサービス

提供したくなかったので、まずは業界の慣習や法律を徹底的に勉強しました。

日本語教師と言う信頼から、生徒さん経由のお客さまもいらっしゃいましたが、起業当初からお客さまに困ったことはありませんでした。というのも、初めから広告費は惜しまず投資してきたからです。経費的に厳しい時もありましたが、私は成功しか頭にイメージがないので、将来的にはプラスに転じると信じ切って判断していました。こういった確信に近い自信が、常にありました。

RHK：ビジネスセンスと言ひ、着眼点の広さと言ひ、とてもパワフルな昆さんですが、これまでの経歴は？

昆： 転々とする、人生でしたね（笑）。大学卒業後、地元のホテルに就職し資金を貯めてから、ワーキングホリデーでニュージーランドに行きました。南島のクライストチャーチを拠点としていましたが、ここでもあちこち行って、気に入ったところがあればそこにしばらく滞在。ネルソンが好きでしばらく住みました。帰国後は、東京・大阪を行き来して、派遣、カスタマーサービス、飲食など仕事も転々としていました。

何しろ好奇心が強く、適応力が高い。異文化に壁がない、吸収するのが早い。住む場所も仕事も人も変化し続けてきたので、色んなことを幅広く知っている。膨大な情報が通り過ぎていく中で「一瞬のひらめき」があって、それに従って生きてきました。飽きっぽいわけではなくて、これ！というものがあればガッツと集中して取り組む一面もあります。

例えば、日本語教師。これにはハマりました（笑）。日本人だからなんとなく教えるというのは嫌で、知識・資格・経験を徹底的に積み、日本語教師は今では私という人間の軸になっています。

この「一瞬のひらめき」が私の武器なのかな。今のヘルパーエージェントの発想も出てきたし、また、政府の朝令暮改が激しく、競合が苦戦している今のご時世でも、逆に色んなアイデアが出てきますね。

とは言え、トラブルを起こさないように対策し、何か懸念があれば専門家の友人にアドバイスをもらうことも忘れません。こうすることで、いざという時に、お客様やヘルパーさんを守ることができます。

【白が基調のサインプンのオフィスにはヘルパーさん達が出たり入ったり。キラッとした空気感の中で、色々なひらめきが輝き出そうです！】



RHK : 香港に来たきっかけは？

昆 : 2010年に、香港人の男性と結婚してやって来ました。3年後に離婚し、配偶者ビザを失いました。崖から落とされたライオンの子の気持ちでしたね。永住権を取るために悩み、中文大学の講座を履修することで、なんとか学生ビザでつなごうと奮闘していましたが、運良く仕事が見つかりました。それは料理人。大きな建設会社で働く日本人労働者の方に和食を作るというもの。日本人であることと料理が好きという実益が重なり、充実して働けました。大企業の管理者クラスでないとなかなか取ってもらえない労働ビザも取ってもらえ、無事、永住権獲得までたどり着きました。

この時の苦労があるからこそ、ヘルパーさん達の就労ビザを扱う重責を実感しています。とあるヘルパーさんが、他社エージェントに手続き書類を渡し安心していたら、実は何もしてもらえていなくて不法滞在扱いになり、強制帰国させられたという話を聞きました。キャリアだけではなく、人の人生を大きく傷つけてしまう可能性のある仕事です。絶対にミスしてはいけないと、日々肝に銘じています。

RHK : ビザ問題は外国人として外国に住む時に強く意識させられますよね。昆さんは努力と運に助けられ…。

昆 : 運の強さは私の武器ですが、無いものもあります。それは協調性（笑）。上司との考えが合わず、それをハッキリ言ったことで2回クビになったことがあります（笑）。

それでも全く平気でした。自分が納得しないことはしたくないし、日本語教師の仕事もあったので困らないし。日本人的ではない強さも私の武器です。

それは今の仕事にとっても役立っています。以前、西洋系のお客様が「訴えてやるー！」と感情的になられたことがあります。それは「それは good idea ですね」と答えました。こちらは起業1年目に叩き込んだ労働法から契約書の隅々までの全てを把握していたので、訴えられても負けません。むしろお客様が理解されていないので、「弁護士連れてきてくれたほうがあなたにとって良いでしょう」と返しました。(RHK:つ、つ、強い〜！)

とは言え、お客様には保守的な方もいらっしゃるし、また私自身も裸の王様にならないように、スタッフやビジネス仲間、友人の意見には常に耳を傾けています。スタッフは大学生ですが、時には私の上司のように教えてくれることもあります。要は社会的な上下関係だけの理由で、仕事のクオリティを落としたいくないのです。



RHK : 竹を割ったような性格は、ご家族の影響もあるのでしょうか？

昆 : あるでしょうね。父が自営業で、いつも人が集まる家でした。父は冗談を言って人を笑わせることが好きで、色んなことを知っていて、情に厚い人でした。裏表のない性格で、思ったことはハッキリ言う。自分をよく見せるというよりも、相手や周囲といった全体のために物事を考えられる人でした。そんな中でお客様にも声を荒げる場面がありました。

母は若い頃、日本在住の西洋人の家でメイドさんをしていたことがあったらしく、そのご家族にとっても良くしていただいた思い出をよく話してくれました。「リンダは今、どうしてるんだろう」と何度も言っていたのを覚えています。ご縁ですよ。

兄弟構成は4人兄弟の末っ子。姉、兄、兄、私です。上の姉兄とは年が離れていたの

で、揉まれることも、可愛がられることもなく、コキ使われていましたね！

歯に衣着せずシンプルに答えるというのは、無礼と取られることもあります。飾らず率直に自分の言葉で話せば、共感してくれる人とそうでない人が自ずと分かってくると思います。お互いに本気でぶつかり合って、ひと悶着あったお客様こそ、次に大口のとても良いお客様をご紹介くださることがあります。

私にとってお客様との関係性はイーブン（平等）、「お客様は神様」ではありません。資産が多いとか、肩書がスゴイとかであっても、私は対応を変えません。本当の緊急事態にはもちろんプライベートの時間を削って対応しますが、全く緊急でないことを「緊急だ！」と慌てるお客様に対しては、慌てる必要性のないことを説明して安心してもらいます。

良いヘルパーさんを紹介するのは、想像以上に大変なんです。だからポンと軽い気持ちの依頼なのか？あるいは雇用しているヘルパーさんの愚痴を言いたいただけなのか？あるいは私を頼って本気なのか？限られた時間の中で、誰のために自分の時間を使うのか。それは逆にシビアに判断させてもらっています。

同時に、私が悪かったと思う場面では躊躇なく謝ります。お客様に対しても、ヘルパーさんに対しても。目上・目下、社会的立場は意識していません。人として本気で接することが、信頼と関係性を築いていけると思っています。

…と言っても、日本語教師としては、日本の文化として目上の人を敬う等はちゃんと教えていますけれど！（笑）

RHK：この仕事に必要なのは、知識・強さ、そして…？

昆：人が好き、という事でしょうね。強く勝手に生きてきたみたいな印象を持たれるかもしれませんが、私にも日本時代から10数年に渡りつながっている元上司や友人がいます。また、ヘルパー紹介や契約だけではなく、契約後コンサルタントにも多大な時間を費やしていますが、これは雇用主さんとヘルパーさんが誤解を重ねて絡ませてほどけなくなってしまった毛糸をほぐす作業で、これも人の話を聞き・諭す、つまり人に関心がなければできないことです。

異文化から生まれたコミュニケーションギャップは、往々にして、傍から聞けばとても些細な事。でも本人同士にとっては、お互いを信用しきれず、辞める・辞めさせるといった大きな誤解やフラストレーションに発展してしまいます。特に顕著なのは、香港家庭 vs.日本人/西洋人家庭の違い。香港人家庭は、何しろヘルパーさんに任せて働いてもらう。何もしていないと休んでいると怒られてしまう。逆に、後者の家庭では、ヘルパーさんに黒子的にサポートしてほしい、家族の時間を家事で邪魔しないとか。香港家庭から日本人家庭に来たヘルパーさんは「空気が読めない」と怒られ、反対の場合は控えめにしていると「怠けている」と怒られて大変ですよ。複数の要望がある時には日本家庭の勉強会をヘルパーさんにしたりもします。ここでも日本語教師としての経験が活かされます。

RHK：日本人や西洋人の雇用主側の気持ちや期待はだいたい分かりますが、ヘルパーさんの出身地フィリピンはまた別次元の文化圏。その人達を理解するために心を砕いていることはありますか？

昆：うーん…目線を同じレベルに合わせるということですかね。上から目線でもなく、下からでもなく、同じレベル。彼女達は私のことを「友達」であり、「頼れるお姉さん・ボス」とも思っているんじゃないかな。

雇用主さんの中には、「契約終了 (Finish) *」だけのヘルパーさんに会いたいという方がいます。エージェントによっては「契約終了」のヘルパーさんだけを紹介するのを売りにしたり。ですが、それではミスリードになることもあります。置かれていた職場環境や仕事内容、その他の要因によってやむを得ない場合もあるので、特にそういった経歴を持つヘルパーさんには入念にヒアリングをします。

(*RHK注：他に「雇用主からの解雇(Terminate)」「ヘルパーによる契約破棄(Break)」という終了形態があり、円満である「契約終了 (Finish)」のみが好ましく評価される傾向がある)

ヘルパーさんとの面接では、履歴書に目を通しますが、それよりも実際に話を聞き、当人のしぐさや視線を観察し、自分が感じるものを頼りにします。本当に困っているな、本当は頑張れるな、この人は出来るな。そう判断したら、経歴に関わらず、最優先に推

薦することもあります。最後は雇用主さんの決断ですが、雇用主さんに合い、良いと思った人は雇用主さんにも理解してもらえよう尽力します。

人が好きで人と話すことがとても重要です。ビジネスのアイデアはお客様やヘルパーさんとのおしゃべりから生まれることもありますから。

RHK : 最近感動したことは？

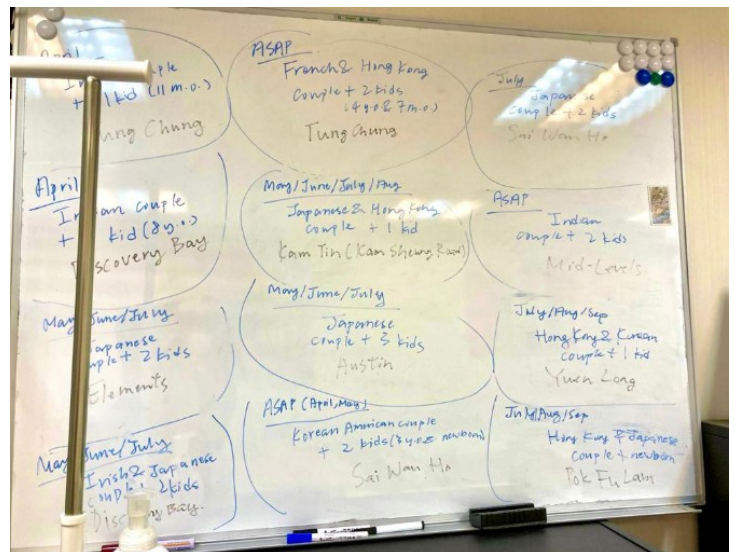
昆 : 香港人のお客様に、香港で一番の高級お寿司屋さんに招待してもらいました。春だったので、富山のホタルイカや春の味覚が桜の枝とともに供され…。板長さんからもそれぞれの産地や仕込み方を教えてもらって。これには感動しました。

時を同じくして、別のお客様にも高級お寿司屋さんに招待してもらいました。こちらは江戸前寿司で、煮切り醤油やユズや塩ですでに味付けされたもので…美味しかった～！初めてのスタイルで感激しました。

香港人の生徒さんには富裕層の方が多く、日本に旅行する時も、私が知らないような会員制の料亭に行ったり、高級旅館に滞在されたり。私が色々教えてもらっている感じがす（笑）。良い刺激になりますね。

もうひとつ感動したのは、友人に誕生日を祝ってもらったこと。今仕事が軌道に乗っていることもあり、去年から大忙しなんです。皆さんがクリスマスや旧正月を楽しんでいる間も休みなしで働いている中で、これは本当に嬉しかった！

【オフィスのボードには秋までの案件がビッチリと…。お疲れ様です！】



RHK : 冷蔵庫に常備しているものは？

昆：冷蔵庫2つあるんですが、中に入っているのは、牛乳、卵、水、日本茶…これは自分で煎れたものを冷やしておいています。それから犬のご飯ですね。これは絶対に切らしません。お肉、パスタ、うどん、野菜なんかを入れた手作りです。犬は2匹いますが、白い犬種は遺伝的に弱いと言われているようですね。実際、2匹とも多岐にわたるアレルギー体質と診断されました。市販のアレルギー対策済みのドッグフードでもアレルギーとなるものが入っていて、合うものを探すよりも、自分が作ったほうが確実に安上りなので、そうしています。

RHK : お忙しいのに2匹も！犬種は何ですか？



昆：ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア、通称ウェスティです。名前はクッキーとマロン。私が食いしん坊なので、お菓子の名前です（笑）。クッキーは9年前、赤ちゃんの時にモンコックのペットショップで出会いました。マロンは保護犬で、保護直後にペットの美容室で手入れされているところで偶然出会い、引き取ることにしました。

この2匹のために香港にいると言っても過言ではありません（笑）。私は会社では人に指示して動いてもらっていますが、帰宅すると犬に使われています！ご飯食べたい、トイレ掃除して、外で遊びたい…自分の前に犬！我が家では犬の方が偉いんです。実はこの4月に、引っ越しをしたんですが、それもこの2匹のためなんです。保護犬のマロンは敏感で他の犬を見るとパニックになってしまい、とても一般的な時間に散歩はできず、これまでは私の仕事が終わった深夜に散歩に連れて行ってました。ですが、仕事が忙しくなるにつれてそれも厳しくなり、そんな時に、広い屋外テラスのある物件を紹介

介され、即決しました。これで私が在宅の時はいつでも屋外に出られるようになり、犬も人間も大満足です！

【大人しくご飯を待つ2匹。手作りフードも美味しそう♡人間が食べても遜色ないものだそうです！】



RHK：最後に香港・日本・世界で頑張る同胞にメッセージをお願いします。

昆：香港は人が面白い。刺激もある。強い気持ちで何かを成し遂げたいという人にはこの上ない舞台になるでしょう。人を頼る人にはキツイかもしれない。でも「私はこれ！」と突っ走れるなら、それに賛同してくれる人は自然と集まってくる街です。

親日家も多いので、市井の人達との触れ合いも心地よいです。カフェでも気軽に声をかけてくれ、片言の日本語で「日本に旅行した」「素晴らしい国だね」と褒めてもらえると、やはり嬉しい。

同時に、私のエージェンシーにも沢山の香港人のお客様が来られるので、どうしてローカルエージェントに行かないの？と訊いたら、ご自身の旅行や日本人の友人を通して、日本のサービスに非常に良いイメージと信頼を抱いているからという返事。そこまで思ってもらえるのは嬉しいけれど、その期待を裏切ってはならないとプレッシャーも感じます。私だけでなく、世界で活躍する日本人の一人一人が、その信頼を裏切らぬよう、期待に応えられるよう、尽力せねばと思いますね。

自信を持つことは重要です。私はすべての経営判断を自信を以って下してきました。ここで言う私の自信とは、根拠のない自信ではありません。これまでのあらゆる経験・知識・自身の適正に基づいているもの。自信というよりも確信に近いかな。私はビジネス

書を読んだこともないし、起業セミナーで学んだこともありません。ですが、会社経営者と仲良くなることが多いので、そういった方々にアドバイスをもらったりもします。だから決して自分一人の力ではないのです。自分の会社を持つことの面白さ、それは自分が創造し、社会に受け入れられ喜ばれること。「ありがとう」という社名に恥じない仕事を続けていかないとですね。

=====

【A rolling stone gathers no moss ~ 活動的な人は新鮮である】をまさに地で行く昆様。インタビューをお願いした時も、「いかにも経営者的なカッコイイ見せ方はせず、等身大の私を書いてください」と直球のリクエスト。全てにおいて白黒ハッキリとしていて、「ジャンクフードも遊びも大好き！」と存在自体にも勢いのある昆さんですが、「社長と呼ばれるのは苦手」「果物を買って家でフレッシュジュースを作るのが好き」と可愛らしい一面も。見せかけではなく、人としての在り方が本物志向。本音でのやり取りが信頼関係を作るという信念そのままの生き方に、読者の皆様も刺激を受けたのではないのでしょうか？

昆様、お忙しいところ楽しいひと時を大変にありがとうございました。今後も益々のご活躍を“確信”しております！

本日のパワーVIP：昆久子様

HKO ARIGATOO LIMITED

Managing Director & Qualified native Japanese teacher

www.hkoagt.com